

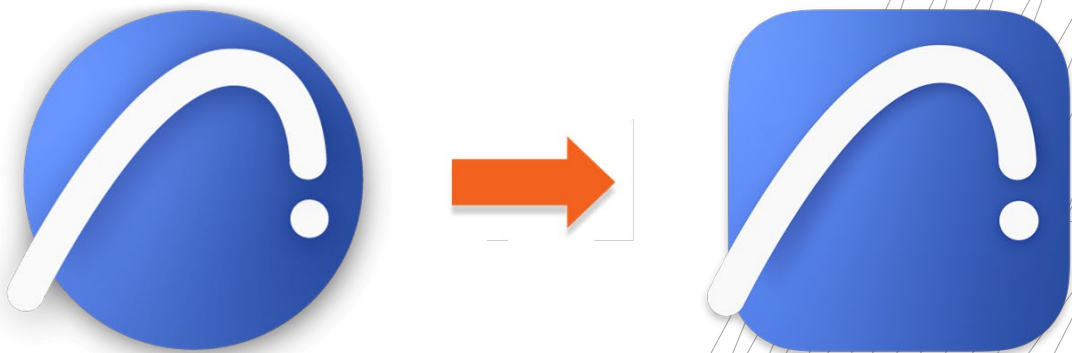
GRAPHISOFT Learn™ **WORKFLOW GUIDES**

ワークフローガイド

ARCHICAD テンプレートのアップグレード

Archicad 24 から Archicad 25 へ

2021 年 7 月



このワークフローガイドは、BIM ワークフローおよびプロジェクト管理に関連する課題に対して推奨されるソリューションを提供することを目的とし、そのノウハウをまとめた文書です。

「Archicad テンプレートのアップグレードに関するワークフローガイド」では、社内用のテンプレートを Archicad 24 から Archicad 25 にアップグレードする際に確認しなければならない主要な設定と機能の概要を示します。

この文書では Archicad24 より古いバージョンについては言及しておらず、ここでのテンプレートのアップグレードのプロセスは Archicad 24 から Archicad 25 についてのものである点に注意して下さい。

この文書は皆さんの作業の効率化を目的として作成されました。ご意見ご感想などございましたら、helpcenter@graphisoft.com までお知らせください。



地域の販売代理店および製品の取り扱いについては、Graphisoft のウェブサイト www.graphisoft.com でご確認ください。

ワークフローガイドシリーズ

ARCHICAD テンプレートのアップグレード

Archicad 24 から Archicad 25 へ

(国際英語版)

著作権 © 2021 GRAPHISOFT

事前の書面による許可なしの複製、引用、もしくは翻訳を厳しく禁じます。

商標

Archicad® は GRAPHISOFT の登録商標です。その他すべての商標はそれぞれの所有者の所有物です。

作成者

著者

Máté Marozsán - GRAPHISOFT SE

目次

イントロダクション	5
1. ライブラリ	7
1.1. コンテンツライブラリのアップデート – 新しい住宅用家具要素	7
2. ビュー	9
2.1. デフォルトのビュー	9
2.2. 表現の上書き設定	9
2.3. 断面図/立面図/展開図ビューの設定	11
3. ナビゲーション	11
3.1. 2D と 3D に関する新しいコマンド	11
4. 情報の管理	12
4.1. 連動一覧表	12
4.2. プロパティグループ説明	13
5. ツールのデフォルト & お気に入り	14
5.1. 階段ツールの機能改善	14
5.2. ラベルツール – MEP ラベル	14
6. 属性	15
6.1. 塗りつぶし	15
7. コラボレーション	16
7.1. 位置設定 – 測量点	16
7.2. Rhino エクスポートオプション	16
8. 構造ツールのデフォルト & お気に入り	18
8.1. 構造解析モデルにおける荷重の処理	18
8.2. 構造分解モデルの生成ルール	19
8.3. 構造サポート: 合理化された入力方法	19
9. 構造情報の管理	20
9.1. 改善された SAF 変換機能	20
10. ワークフロー	21
10.1. 一般	21
10.2. テンプレートファイルの場所	21

10.3. 社内向け BIM マニュアル	21
10.4. BIM マニュアルにおいて推奨される内容	21
10.5. アップデートされたテンプレートに関するトレーニング	22
付録.....	23
手助けとなるヘルプセンター記事へのリンク	23
キーワード.....	23

イントロダクション

社内用のテンプレートは、プロジェクトを効率的に開始し、ワークフローを生産的に進めるために不可欠です。テンプレートによって作業方法に一貫性をもたせ、成果物を標準化することが可能になります。Archicad は 1 年ごとにアップデートされるため、新しい Archicad バージョンで導入される新機能にあわせて社内用テンプレートを再確認し、アップグレードすることが推奨されます。

以下では、既存の Archicad 24 で作成した社内用テンプレートを Archicad 25 にアップグレードする際に考慮すべき主要な項目を、「建築編」と「総合設計編」の 2 部構成でご紹介します。



テンプレートのアップグレード

建築編



1. ライブラリ

ファイル内に読み込むべき Archicad ライブラリは Archicad 24 ライブラリのみです。移行ライブラリをテンプレートに読み込むことは推奨されません。移行ライブラリは、以前のバージョンの Archicad から Archicad 25 にプロジェクトをアップグレードする際に、後から追加することが可能です。

埋め込みライブラリは空とします。テンプレートファイルにさらにオブジェクトを追加する必要がある場合、テンプレートには Archicad 25 用のライブラリと共に、社内用のライブラリを読み込むことが推奨されます。

1.1. コンテンツライブラリのアップデート – 新しい住宅用家具要素

継続的なライブラリ開発の一環として、改善されたユーザーインターフェイスを備える 39 以上の新しい住宅用家具オブジェクトが作成されました。古いバージョンで作成されたプロジェクトを移行する際には、必ず「Archicad ライブラリを移行」機能を使用して最新のライブラリを使用できるようにして下さい。

改善されたライブラリパーツのリストは以下の通りです。

椅子	ダイニングチェア 01 ダイニングチェア 02 ダイニングチェア 03 コンポジットチェア 01 コンポジットチェア 02 コンポジットチェア 03 メタリックビストロチェア ビーンバッグチェア
長椅子とソファ	ソファベッド 02
装飾	洋服ハンガー カーテン
商店什器	コートラック 02
テーブル	ビストロテーブル 01 コーヒーテーブル 09
ベッド	マットレス

屋外用家具

屋外グリル

ラベル

MEP ラベル
ゾーンラベル

キッチンキャビネット

ベースキャビネットブロック
ベースキャビネット面取り
ベースキャビネットエンド 01
ベースキャビネットエンド 02
ベースキャビネットコーナー部 C
ベースキャビネットコーナー部 L
ベースキャビネットコーナー部 S
ハイキャビネットブロック
ハイキャビネット面取り
ハイキャビネットエンド 01)
ハイキャビネットコーナーC
ハイキャビネットコーナーL
ハイキャビネットコーナーS
ウォールキャビネットブロック
ウォールキャビネット面取り
ウォールキャビネットエンド 01
ウォールキャビネットエンド 02
ウォールキャビネットコーナーC
ウォールキャビネットコーナーL
ウォールキャビネットコーナーS



2. ビュー

2.1. デフォルトのビュー

ユーザーが必要に応じて開始点に戻ることができるよう、プロジェクトマップにおけるデフォルトの階層と一致する汎用的な平面図ビューを作成することを推奨します。

このビューは、以下のようなものになります。

- すべての要素およびすべてのコンポーネント（レイヤー、リノベーションステータス、躯体表示など）を表示する。
- 上書き（リノベーションステータスの上書き、表現の上書き）を全く含まないビュー。
- 最高の詳細レベルまでコンポーネントを表示する（最も詳細なモデル表示オプションを使用する）。
- 要素レベルのすべての設定が上書きされないことと、すべての要素がそれらのデフォルトの設定で表示されることを保証する。
-

上記によって、テンプレートから作業を開始する新しいユーザーが要素レベルの設定（例：異なるビルディングマテリアル）を変更しなければならない状況や、視覚的な変化が見えない状況（グラフィックの上書き設定によってすべての要素が黒色で表示されるため、など）を避けることができます。

2.2. 表現の上書き設定

[表現の上書きルール]内の[上書きスタイル]には、柔軟性をさらに高める新しいオプションが追加されています。

- 2D と 3D のビューの間で表現を同期させるために、[材質]と[塗りつぶし背景ペン]の両方に対してカスタム RGB カラーを選択します。

▼ 上書きスタイル

☐ 線種: 実線

☐ 線/マーカー/テキストペン: 1

☒ 塗りつぶし種類: 25 %

☒ 仕上げ分離線を非表示

☒ 塗りつぶし前景ペン: 20

☒ 塗りつぶし背景ペン: -1

ペン/カラー:

○ ペンカラーのみ上書き

● ペンカラーと太さの上書き

☒ 材質: レンガ - 長手積み

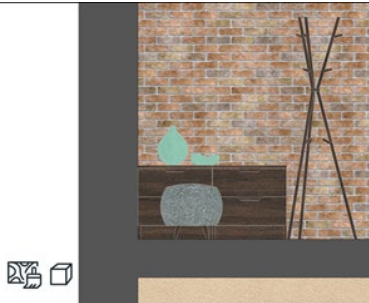
☐ モデルの輪郭を非表示:

キャンセル OK

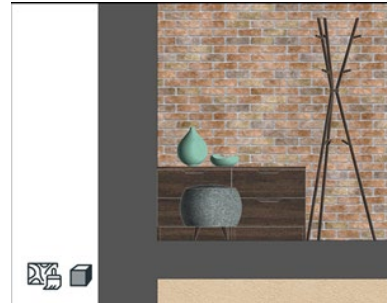
2.3. 断面図/立面図/展開図ビューの設定

[選択した立面図の設定]または[選択した断面図の設定]内の、新しい[モデル外観]パネルで、[材質テクスチャ]を投影要素に表示させることができるようになりました。さらに、[表面塗りつぶし]をテクスチャの上に適用し、[背景要素のフェード表現]についても定義することが可能です。

- ビルディングマテリアルのテクスチャを表示するために、[投影要素]のドロップダウンメニューを使用して、[テクスチャ塗りつぶし]の属性（シェードあり/シェードなし）を選択できます。



材質－テクスチャ塗りつぶし、シェードなし



材質－テクスチャ塗りつぶし、シェードあり

- テクスチャに加えて材質の「表面塗りつぶし前景」（以前は「ベクトルハッチング」と呼ばれていたもの）表示したい場合は、[投影要素]にある[材質-表面塗りつぶし前景]オプションをオンにします。
- [背景範囲を指定]は[遠くの要素のフェード]に名称変更された点にご注意下さい。

[お気に入り]（断面図/立面図/展開図）に上記の機能を使用したい場合は、テンプレートの作成時に関連する各パネルにおいて必ず設定を確認し、変更するよう注意して下さい。

また、プロッターは透明な塗りつぶしを処理できない点にも留意して下さい。テクスチャタイプの塗りつぶしについて、影とシェーディングは透明な塗りつぶしをもとにしているため、プロッター出力ではこれらはソリッドな塗りつぶしとして表現される点にも注意して下さい。

3. ナビゲーション

3.1. 2D と 3D に関する新しいコマンド

2D と 3D のナビゲーションコマンド改善の一環として、以下の新しい機能を追加したショートカットがアップデートされました。

	平面図で選択	Shift+F2
	3Dで選択	Shift+F5
	3Dで選択内容のみ表示	F5
	3Dで全てを表示	Ctrl+F5

4. 情報の管理

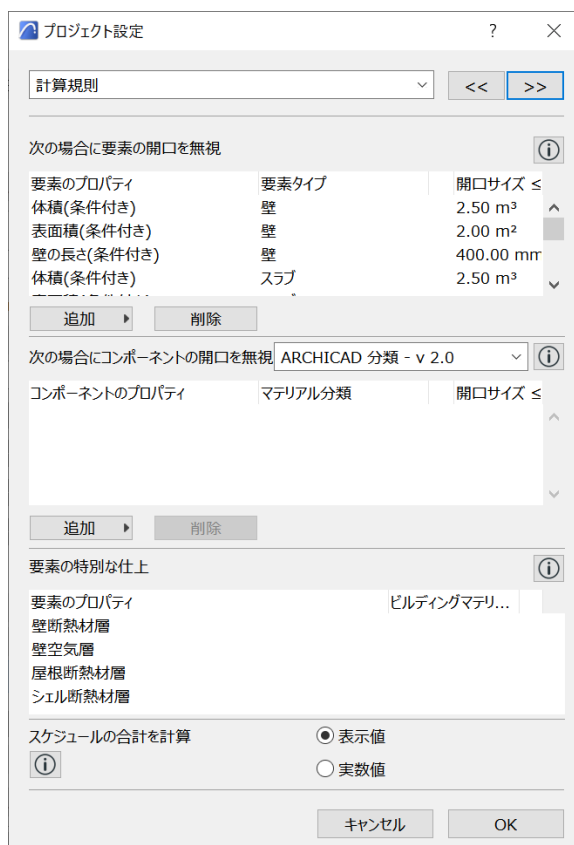
4.1. 連動一覧表

新しい「総体」および「条件付き」面積/体積のプロパティを使用すると、コンポーネントの数量を一覧表化することができます。

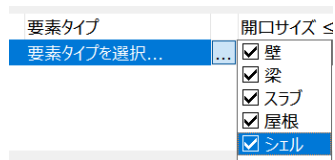
- 「総体」プロパティを使用 – コンポーネントにある穴は無視されます。
- 「条件付き」プロパティを使用 – 穴は寸法に応じて差し引かれるか無視されます。

	コンポーネントの体積(条件付き)
	コンポーネントの体積(正味)
	コンポーネントの体積(総体)
	投影コンポーネントの面積(条件付き)
	投影コンポーネントの面積(正味)
	投影コンポーネントの面積(総体)

- [オプション]→[プロジェクト設定]→[計算規則]では、「条件付き」パラメータを用いて特定の要素やコンポーネントをどのように計算するかを制御し、指定します。



- [次の場合に要素の開口を無視]では、条件付き要素プロパティの開口サイズ $\leq$ （これより大きな寸法の穴は差し引かれる）を設定し、1つ以上の要素タイプを選択することができます。チェックを入れた要素タイプに対してのみこの条件が適用されます。



- [次の場合に要素の開口を無視]において、条件付きコンポーネントプロパティの開口サイズ $\leq$ （これより大きな寸法の穴は差し引かれる）を設定し、ビルディングマテリアル分類を選択すると、この分類のコンポーネントに対してのみこの条件が適用されます。
- [要素の特別な仕上]では、「断熱材」もしくは「空気層」として認識される複合要素のコンポーネントに対してどのビルディングマテリアルが使用されるかを定義することができます。
- [スケジュールの合計を計算]では、一覧表で小計がどのように合計されるかを定める2つのオプションから1つを選択します。
 - 表示値（デフォルト）
 - 実数値

4.2. プロパティグループ説明

ツール設定において、グループ上にマウスを移動するとツールヒントとして表示されるプロパティグループ説明を追加します。

[オプション]→[プロパティマネージャー]において、各プロパティグループにある[説明]フィールドに説明を追加します。

5. ツールのデフォルト & お気に入り

5.1. 階段ツールの機能改善

階段ツールでは、各階段セグメントの長さを計算する方法を選択することができるようになりました。



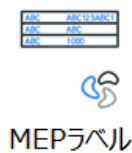
- 円弧に沿って（レガシー：以前の Archicad バージョンでも提供されていたもの）
- 弦に沿って：セグメントが弦に沿って測定されます。

「弦に沿って」および「円弧に沿って」を使用すると、[基準線をロック]がアクティブになります。

これまでに「お気に入り」を作成してある場合は、テンプレート内の上記のオプションを使用してこれらのお気に入りを確認し、必要に応じて再定義するようにします。

5.2. ラベルツール – MEP ラベル

新しい[MEP ラベル 25]をカスタマイズして使用することで、MEP システムもしくはダクトの直径といった MEP 関連の要素データを表示し、これを「お気に入り」としてテンプレート内で保存、管理できます。

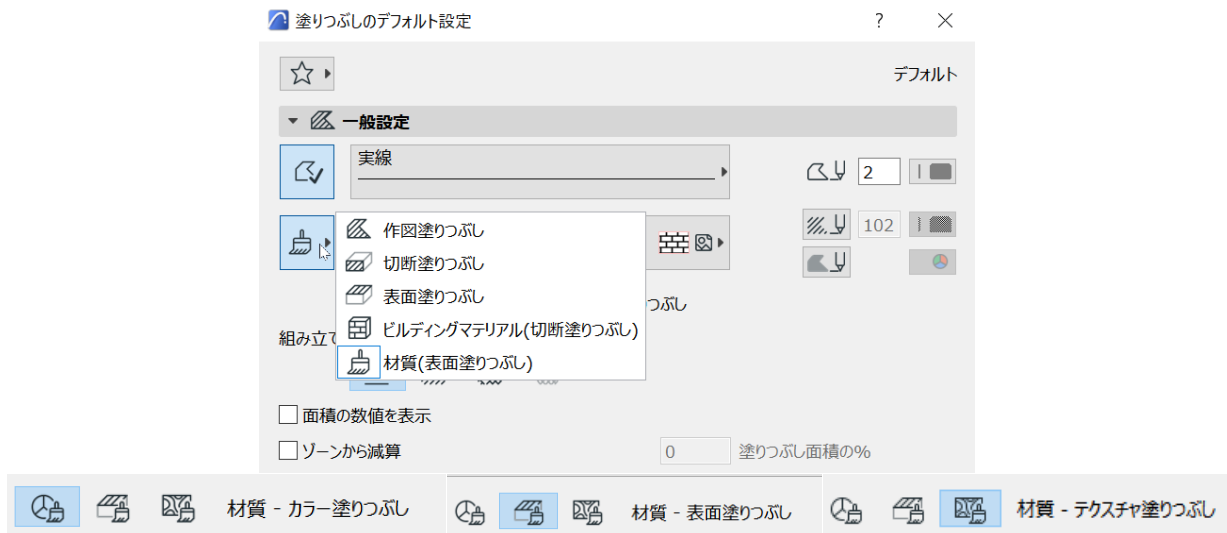


6. 属性

6.1. 塗りつぶし

[塗りつぶし]は材質の色、表面塗りつぶしまたは選択された材質属性のテクスチャにアクセスし、表示することができます。

- [塗りつぶしのデフォルト設定]でドロップダウンメニューから[塗りつぶしカテゴリ]を使用すると、「材質（表面塗りつぶし）」を選択することができます。



7. コラボレーション

7.1. 位置設定 – 測量点

[プロジェクト位置]は名称が変更され、[オプション]→[プロジェクト設定]→[場所の設定]で確認することができます。

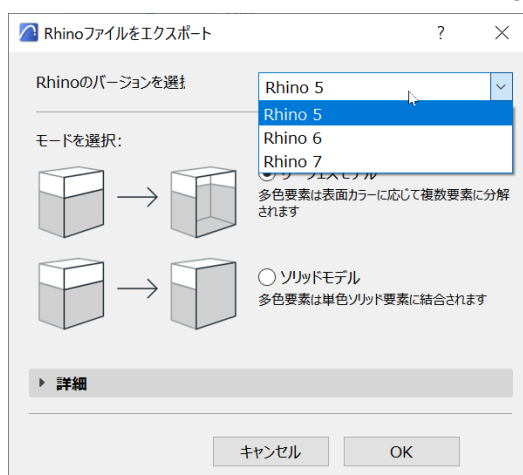
固有の[測量点]が導入され、[位置設定]ダイアログボックスで設定することが可能です。



詳細については、Archicad 25 の「測量点に関するワークフローガイド」を参照して下さい。

7.2. Rhino エクスポートオプション

Archicad では、Rhino 6 および Rhino 7 ファイルへのエクスポートが可能になりました。



3D 要素を選択し、[ファイル]→[名前をつけて保存]→3dm ファイルを選択し、[オプション]でエクスポートされるデフォルトの Rhino バージョンを決定して、この変更をテンプレートファイル(.tpl)内に保存することができます。

テンプレートのアップグレード

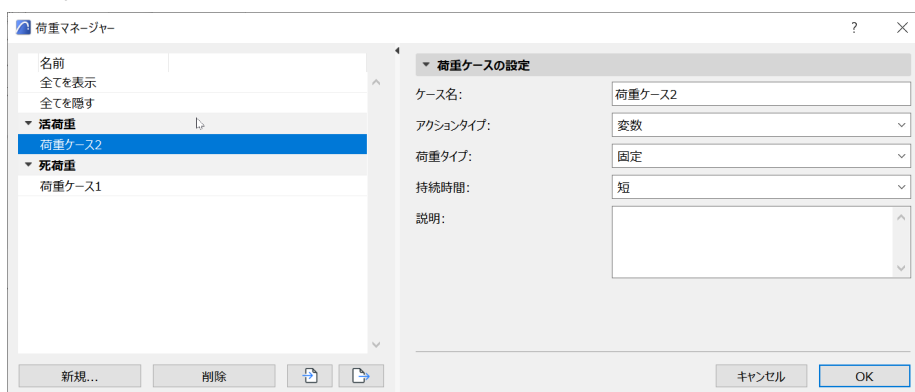
総合設計編



8. 構造ツールのデフォルト & お気に入り

8.1. 構造解析モデルにおける荷重の処理

- [作業環境]設定から「構造エンジニアリングプロファイル 25」（もしくは単純化された「構造エンジニアリング基本プロファイル 25」）を適用するか、もしくは[構造エンジニアリング]ツールバーを開き、構造解析モデルに関連するすべての機能を確認します。単純化された作業環境を設定するためには、「構造エンジニアリングベーシックプロファイル 25」を代替のプロファイルとして適用します。
- このツールボックスおよび[構造エンジニアリング]ツールバーは、3 つの新しい荷重ツールを含む、構造要素のダイアログボックスと各種ツールを含んでいます。
- お気に入りを作成する前に、新しい荷重要素を使用してこれを定義します。
 - 構造点荷重
 - 構造線荷重
 - 構造面荷重
- Archicad における荷重の取り扱いに関する改善の一環として、荷重の管理に関する新しい概念が導入されました。
 - 荷重ケース
 - 荷重グループ
 - 複合荷重
- [オプション]→[荷重マネージャー]において、構造に作用する各種の荷重をリスト化し、管理することができます。[荷重組み合わせ]では、この目的のために適切な数値係数を設定することができます。



荷重ケースおよび荷重グループは、プロジェクトに特有のそれぞれ独立したデータで、建物の特性を元に構造エンジニアによって定義されるものである点に留意します。
荷重組み合わせについては、入力値は地域/国の基準を元に定義されます。

- [オプション]→[プロジェクト設定]→[構造荷重の単位]において、Archicad テンプレート内に保存したい点荷重や点モーメント、線荷重、線モーメント、面荷重に関するすべての単位を設定します。

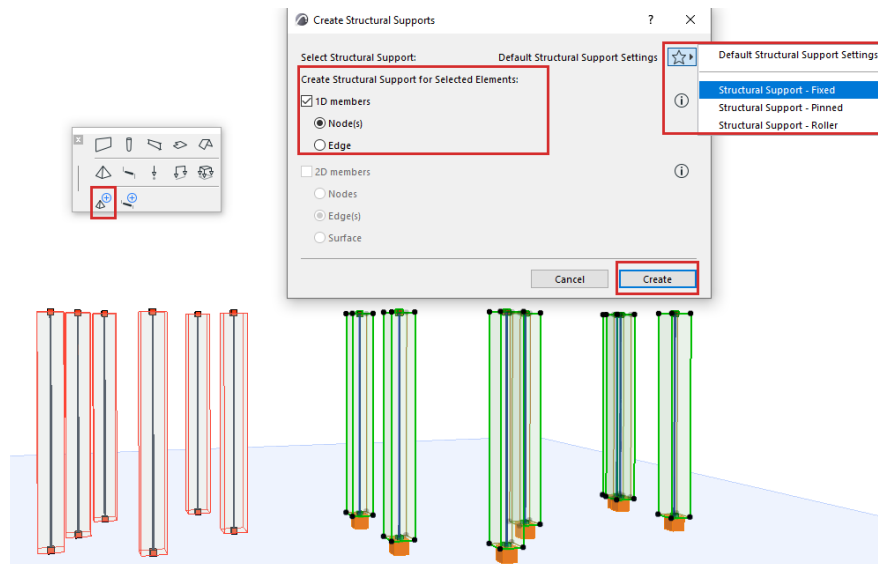


8.2. 構造解析モデルの生成ルール

オフセットアジャスタが改善され、より複雑な構造に対応できる新しい方法が追加されました。Archicad は、デフォルトでは「コンクリート構造」と「鉄骨フレーム構造」という既定の 2 つのルールセットを備えています。この特定の目的のために、生成ルールを含む .xml ファイルを保存し、インポート機能を用いてプロジェクトのどの段階においても同じ[構造解析モデルの生成ルール]ダイアログボックスからこれらをインポートすることが可能です。

8.3. 構造サポート: 合理化された入力方法

- [デザイン]→[構造解析要素]→[構造サポートを作成]を使用すると、選択された構造部材に既定の構造サポートをワンクリックで追加できます。
- 設定を定義してお気に入りを作成し、すべての構造サポートを一度に配置することが可能です。



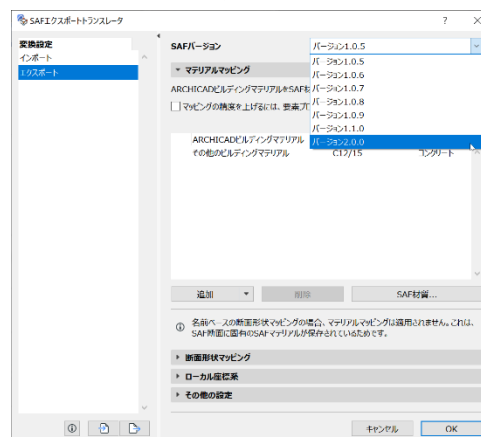
9. 構造情報の管理

9.1. 改善された SAF 変換機能

Archicad ではバージョン 24 から、構造解析ファイル形式 (SAF) を介して構造解析モデルを構造解析ソフトウェアと共有することが可能になりました。このファイル形式は世界共通でオープンソースのファイル形式で、Nemetschek Group により開発され、この目的のために最適化されてきたものです。

SAF ファイル形式をインポート/エクスポートするための変換設定は、[ファイル]→[相互運用性]→[SAF]メニューから確認できます。変換には主要なものが 2 つあり、1 つはインポート用、1 つはエクスポート用のもので、Archicad 25 の標準テンプレートの一部となっています。

Archicad は現在、公開されているすべての SAF バージョンをサポートしています。SAF のエクスポートにおいて SAF バージョンドロップダウンメニューを使用して、解析ソフトウェアの互換性に合わせてエクスポートされるファイルを最適化します (バージョン 1.0.5 からバージョン 2.0.0 まで)。



[SAF 変換設定]ダイアログボックスから、SAF 変換設定を.xml 形式で保存することが可能です。

10. ワークフロー

10.1. 一般

新しいバージョンの Archicad が提供する新機能を利用するには、テンプレートファイルの特定の部分を再度作成するか変更する必要があるため、効率性や生産性の改善のためには既存の特定のワークフローについてもこれを再検討し、変更する必要性の可能性が非常に高くなる点に留意します。

このタスクには、新しい方法による共有、リンク化、およびビューやレイアウト、発行セットの作成などが含まれる場合があります。

10.2. テンプレートファイルの場所

テンプレートの場所は、プロジェクトチームのメンバーとユーザーの間で決定し、共有する必要があります。一方で、旧バージョンを偶発的に使用してしまうのを避けるために、全ての旧バージョンのテンプレートをアーカイブし、ロックしなければなりません。

このテンプレートが BIMcloud ベーシックサーバー上にある場合、必ず新しいバージョンのテンプレートをこのサーバーにアップロードするようにして下さい。

テンプレートファイルの保存に BIMcloud を使用している場合、古くなったすべてのテンプレートファイルは必ずロックするか、削除するようにします。

10.3. 社内向け BIM マニュアル

全ての変更が終了した後は、全ての変更点を社内の BIM マニュアルに記録し、必要に応じてプロジェクトの作成方針を更新することを推奨します。社内向け BIM マニュアルが存在しない場合は、これを作成することを推奨します。

10.4. BIM マニュアルにおいて推奨される内容

総合設計

Archicad 25 の構造解析モデルに関する新しい各種機能を用いてどのように構造エンジニアとコラボレーションを行うかについて、BIM マニュアル内に記載しましょう。それぞれの技術分野のために[作業環境]設定を設定し、必要となるすべてのパレットやツールバーをオンにします。

- どの要素のお気に入りを使用するかを記載します。
- 構造エンジニアとの協議において
 - どの構造解析モデルの生成ルールを使用するかを説明し、また構造エンジニアチームから、その作成/変更/削除に対して誰が責任を持つのかを説明します。
 - 構造エンジニアチームの中で、構造解析モデルの作成ルールと解析モデルの接続を確認す

るための責任者を指名します。

- 物理モデルと構造解析モデルの品質を確認するための責任者を構造エンジニアチームから指名します。
- SAF ファイルのやりとり、またこれらのファイルがやりとりされる方法についての責任者を構造エンジニアチームから指名します。
-

MEP

MEP モデルに関するワークフローがどのようなものであるか、またその作成と品質確認に対する責任者を BIM マニュアルに記載します。MEP 分野プロファイルの作業環境を設定し、このワークフローに必要な全てのパレットやツールバーをオンにします。

- MEP エンジニアとの協議において
 - どの MEP 要素のお気に入りを使用するか、またこれらをどのように使用するかを記述します。
 - MEP モデルの品質確認に対する責任者は誰になるのか？
 - 作成を開始する責任者は誰か、またどのワークフローが用いられるのか？
 - MEP モデルがどのようにやりとりされ、やりとりの責任者は誰か？

10.5. アップデートされたテンプレートに関するトレーニング

優れたテンプレートもスタッフがその使い方を知らなければ十分ではありません！ご自身がおこなった変更点をチームに共有し、新機能や異なるワークフローについて彼らにトレーニングをおこなって下さい。

付録

手助けとなるヘルプセンター記事へのリンク

- [1] ライブラリの機能拡張
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/knowledgebase/134064/>
- [2] 拡張された Archicad におけるコラボレーション機能
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/knowledgebase/134053/>
- [3] 構造解析モデルの改善
https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide-chapter/1765#XREF_97745_Structural
- [4] Archicad におけるドキュメント機能の向上
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide-chapter/1762>
- [5] レンダリングのアップグレード
https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide/134189/#XREF_53798_Rendering_Upgrade

注記: Archicad 24 よりも以前のバージョンから移行する場合は、Archicad 25 の[ユーザーマニュアル – リファレンスガイド](#)を参照して下さい。

- 「移行のトピック：移行元のバージョン 18-24」
- 「チームワークプロジェクト（バージョン 13～24）の Archicad 24 への移行」

キーワード

テンプレート、テンプレートのアップグレード、Archicad 24、Archicad 25